

DX導入による賃金UP（実例）

I フロント業務のDX化

i タブレットチェックインシステム / ii PMS

①導入前



- i チェックインが集中する時間帯にフロント列ができる
- ii 紙台帳にて顧客管理を行う

②導入後



- i フロントに限らずチェックインを行える為ウェーティングが緩和
- ii 紙台帳にて行っていた顧客管理を電子化

③効果（定性）

- ・フロント業務の効率化 / 宿泊単価のUP
⇒削減された労働時間を他の業務（ワンドリンクサービス等）に充てることで宿泊単価UPに貢献

II 価格設定のDX化

レベニューマネジメントシステム

①導入前



- ・従業員が競合他社分析を始め、その時々に合わせて価格設定を行い、各サイト分修正する

②導入後



AIが他社データを分析

- ・これまで従業員が行っていた競合価格調査をAIが実施
- ・将来の需要予測や稼働率などの様々データを、リアルタイムで管理し、宿泊料金設定をサポート

③効果（定性）

- ・宿泊単価のUP及び機会損失の抑制
⇒様々なデータを分析し、最適価格での販売を実現
⇒競合価格や宿泊需要の変化をリアルタイムに取得することで、宿泊事業者の機会損失を抑制

III 施設管理のDX化

i Wi-Fi環境の整備 / ii リモートロック

①導入前



- （一棟貸しの施設などにおいて）
- ・お客様の到着に合わせて、従業員が待機する必要がある。

②導入後



- i WiFi環境を整備することで訪日需要に対応
- ii リモートロック導入により、現地で従業員が鍵設定を行わずとも、遠隔対応が可能となる

③効果（定性）

- i 客室稼働率のUP**
⇒WiFi環境整備により、訪日客やワーケーション需要に対応
⇒訪日客やワーケーション客は滞在日数が長い為、稼働日数及び平均連泊数の増加に寄与
- ii 客室稼働率のUP**
⇒チェックインの都度、キーボックスの暗証番号設定のために宿に赴く必要（往復1h）があったが、遠隔対応が可能となり、業務が効率化。客室稼働率のUPに貢献

④結果

収益力 UP



従業員の賃上げの原資にできる

DX導入による賃金UP（実例）

IV清掃業務のDX化 清掃ロボット

①導入前

・従業員が清掃を行っているため、清掃時間・人員を確保する必要がある。

②導入後

・これまで従業員が行っていた清掃業務の一部をロボットが代替（主にエントランス等の共有部）

③効果（定性）

- ①客室稼働率のUP
⇒清掃人員を減らしても、これまでと同じ清掃効果を獲得
⇒減らされた清掃人員が新たに客室清掃に加わることで、稼働率UPに貢献
- ②宿泊単価のUP
⇒削減された労働時間を他の業務（ワンドリンクサービス等）に充てることで宿泊単価UPに貢献

V小売のDX化(売店) 無人店舗

①導入前

・売店専属スタッフ配置による労働生産性の低下
・営業時間が限定的による機会ロス

②導入後

・売店専属スタッフ廃止による運営
・24時間営業の実現

③効果（定性）

- ①労働生産性のUP
専属スタッフを廃止し、従業員をマルチタスク化する事で労働生産性UPに貢献
- ②販売高UPと機会損失の抑制
24時間営業実現による、機会損失の抑制と販売高UP

VIバックオフィスのDX化 財務会計アプリケーションとPMSの自動連携

①導入前

・PMSと会計システムが連携していないため、手作業が発生し、大幅に時間がかかる。

②導入後

・財務会計アプリケーションを導入し、財務システムから会計システムへ自動取り込み

③効果（定性）

- ①労働生産性のUP
⇒自動化による入力作業の大幅短縮
⇒自動化によるヒューマンエラーの低減
- ②販売高UPと機会損失の抑制
⇒経理処理の迅速化による経営判断の迅速化

VII部屋管理のDX化 ルームインジケータ

①導入前

・フロントと清掃スタッフの連携が悪く、どの部屋がチェックアウトしているのか把握できず非効率な状態

②導入後

・ルームインジケータを導入することで、フロント・清掃スタッフ双方の見える化を実現。清掃要の部屋が即時に反映し、業務効率化を実現

③効果（定性）

- ①宿泊単価のUP
⇒清掃を効率化することで、レイトチェックアウト・アーリーチェックインを可能にし、単価UPに貢献
- ②労働生産性のUP
⇒チェックアウト部屋の見える化により、効率的な清掃業務による生産性のUP

